

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」選定

令和4年度

埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

# 抄録集

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成  
～地域で学び地域を学ぶ、地域医療の志の育成～



日時：令和5年**3月30**日(木) **14:30～17:00**

会場：埼玉医科大学

かわごえクリニック 6階大会議室(Live配信併用)

# 令和4年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

テーマ： 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成  
～地域で学び地域を学ぶ、地域医療の志の育成～

日時： 令和5年3月30日（木） 14:30～17:00

会場： 埼玉医科大学 かわごえクリニック（Live配信：ウェビナー併用）

## 《次第》

表彰式： 埼玉医科大学 学長 別所 正美

ロゴ最優秀賞： 群馬大学医学部医学科3年生 中嶋 理名さん

ロゴ優秀賞： 埼玉医科大学医学部4年生 岡村 明日香さん

開会の辞：群馬大学大学院医学系研究科長 小湊 慶彦

開会挨拶：群馬大学 学長 石崎 泰樹

## 第1部. 特別講演 (14:45～15:45)

座長： 埼玉医科大学副医学部長 高橋 健夫

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

総合診療学分野 教授 前田 隆浩 氏

演題：地域医療教育と暮らしを支える遠隔医療 …………… P4

<休憩>

## 第2部. 本プロジェクトの紹介、成果 (16:00～16:45)

座長： 群馬大学大学院医学系研究科副研究科長 小山 徹也

1. 事業の概要： 埼玉医科大学副医学部長 林 健 …………… P5

2. 教育プログラムの成果と現状：

「埼玉医科大学での地域医療教育を通して学べること」

埼玉医科大学医学部医学教育学 教授 柴崎 智美 …… P6

「群馬大学における地域医療と地域に根ざす医療人の育成」

群馬大学医学部附属病院

地域医療研究・教育センター 講師 羽鳥 麗子 …… P7

3. 連携体制と今後に向けて：

埼玉医科大学 地域医療学 教授 廣岡 伸隆 …………… P8

閉会の辞： 埼玉医科大学 医学部長 森 茂久

## ごあいさつ 本事業の意義

事業推進代表者  
埼玉医科大学 学長 別所 正美



埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、医師不足は深刻です。特に、群馬県と接する地域では、患者の群馬県への流出も多く、医療需給に関する問題は、埼玉県のみならず群馬県の医療提供体制を考える上でも重要です。

このような背景を持つ両県の医育機関である埼玉医科大学と群馬大学が連携し、多くの関係機関の協力のもと、国からのバックアップを受け、将来の地域医療に貢献できる医療人材を養成する拠点形成することが本事業の目的です。

本事業によって、地域に愛着を持ち、末永く県民の暮らしを支える意欲を持った優れた人材が育ち、両県の医師不足・医師偏在の解消に繋がることを期待しています。

## ごあいさつ シンポジウムの主旨

事業推進責任者  
埼玉医科大学 副学長 森 茂久



昨年、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材育成拠点形成事業に採択された「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業の重要なイベントであります「埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム」が開催されます。今回は事業初年度のシンポジウムであり、事業はスタートしたばかりですので、キックオフとして大きな意味があります。まずは多くの両県関係の皆様、医療関係者、医学教育関係者、そして若手医師から高校生を含む将来医療人を目指す若者に本事業を知っていただきたいと考えています。

第1部では、地域医療教育の先進地である長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 総合診療学部分野の前田隆浩教授をお招きして、地域医療教育のエッセンスと、離島を対象とした遠隔医療の取り組みについてご講演いただきます。長崎県の地域医療で重要な離島医療は、本事業で関係する埼玉県・群馬県の地域医療のタイプとは異なります。本事業では両県の県境を流れる利根川を中心とした平野部にあり、以前より歴史的に生活の上様々な交流がある地域における医療を、その地域で学ぶことに主眼に置いています。離島医療教育を通して地域医療教育の本質に触れることで、本事業を推進する上で重要なことを気づかせていただけると考えています。

第2部では、まず今回の「埼玉と群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業の概要を説明させていただきます。そして令和4年度に両大学が実施した新しい教育、埼玉医科大学の総合診療内科感染症実習と、群馬大学の利根川プログラムについてご紹介させていただきます。両大学では約5か月間という短期間に、繰り返し意見交換を行い、沢山の新しい計画を立てて、スタートしてきました。まだ始まったばかりですが、その一端を通して新しい教育が放つ未来に向かう期待感を共有させていただきます。

本シンポジウムを埼玉・群馬の未来の地域医療、地域医療教育について、皆様とともに考え、語り継げる場として継続して行きたいと考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ごあいさつ 連携への期待

群馬大学大学院医学系研究科長  
小湊 慶彦



新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在、診療科偏在を解消する重要性が再認識されました。

本事業の目的は、ポストコロナ時代に医師不足地域に必要とされる医療を提供できる医師を養成することです。埼玉県は全国の中でも医師不足が最も深刻な地域であり、特に県北では医師不足・偏在が顕著で、埼玉から群馬へ県をまたいで病院に通っている患者さんも多いという地域性があります。受け皿となっている群馬県の医療情勢としても、医師総数の不足、医師の地域偏在、医師の診療科偏在の3つが喫緊の課題になっています。

医師の地域偏在や診療科偏在、高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するべく、両大学が連携し、県境地域に精通した「地域を良く理解する」、「地域への愛着を持つ」、「課題の発見と解決に対する意欲を持つ」医師の育成を目指し、「県境地域の医療情勢に重点をおいた教育」を行ってまいります。最後になりますが、両県の医師育成拠点として連携を密にする機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

群馬大学、群馬県、群馬県医師会、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院  
伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院

連携・共同

埼玉医科大学、埼玉県、埼玉県医師会、埼玉県立大学  
埼玉県立循環器・呼吸器病センター、秩父市立病院、東松山市立市民病院  
深谷赤十字病院、済生会加須病院、小川赤十字病院、小鹿野中央病院

医学生の地域医療マインドを育みます



## 第1部. 特別講演

- < 演題 > 地域医療教育と暮らしを支える遠隔医療  
< 講師 > 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
総合診療学分野 前田 隆浩 教授



### < 略歴 >

- 1985年 長崎大学医学部卒業
- 1996年 長崎大学医学部原研内科 助手
- 2000年 長崎大学医学部附属病院 総合診療部 講師
- 2001年 長崎大学医学部附属病院 総合診療部 助教授
- 2004年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 離島・へき地医療学講座 教授
- 2012年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学分野 教授
- 2018年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 総合診療学分野 教授
- 2019年から2021年まで 全国地域医療教育協議会 理事長

### < 講演要旨 >

医療の進歩や高齢化の進行などに伴って患者の病態は慢性化・複雑化しており、医療者には多様なニーズに応じた患者中心の医療・ケアを提供することが求められている。地域医療・ケアを支える要素は多岐にわたり、そこに携わる職種も多様であることから、地域そのものを理解し、地域ヘルスケア全般を体験しながら学ぶことが重要である。地域で求められる医療人の育成に向けて、地域との連携のもと、多くの大学で実践的な地域医療・ケア教育が進められている。

また、ICTの目覚ましい進歩によって、距離を意識することなく多様なコミュニケーションが可能となった。地域医療・ケアの現場においてもICTを活用する取組が進んでおり、今後は地域の暮らしを支える基盤システムへと発展していくことが予想される。長崎県では遠隔医療を離島・へき地の医療支援に活用する取組が始まっており、見えてきた課題とともに社会実装に向けた模索について紹介する。

## 第2部. 本プロジェクトの紹介、成果

### 1. 事業の概要

埼玉医科大学副医学部長 林 健

新型コロナウイルス感染症の流行は、日本の医療の課題をあらためて浮き彫りにした。世界有数の病床数を誇りながら、救急車が100件以上も断られた、病院受け入れまで8時間以上かかった、などのニュースが流れたことを記憶している方もいるであろう。

これにはさまざまな複合的要因があると思われるが、今の時代の医療ニーズに医療者が十分応えられていないことも一因であろう。時代とともに変化する新しい医療ニーズに対応するためには、それに則した新しい教育が必要だ。令和4年度に文科省が公募した「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」は、地域の医療ニーズにしっかり応える資質を持った医師を育成することを目的としている。

埼玉県と群馬県の県境地域は全国屈指の(!)医師不足地域であり、両県は多くの医療課題を共有している。そのため、埼玉医科大学と群馬大学が連携して「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成プロジェクト」を練り上げた。両大学とも以前から地域医療教育には注力してきたのだが、それをさらに拡充させることを目指している。そしてこれが、文科省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された。

令和4年度から、両大学が力を合わせて地域で活躍できる医師を協力し育成していくことになった。

地域で活躍できる医師、医療ニーズに応える資質とはなにか。地域と理解、地域医療への志向、総合診療の能力、感染症対応、他職種との連携、などが挙げられるであろう。本事業ではこれらを育成するために、5つのプログラムを用意した。一部は共同開講とし、両大学学生の接点も増えていく。

地域で活躍できる医師を育成するためには、大学に閉じこもっていたのでは十分な教育ができない。そのため本事業では両県の医療機関、それも比較的医療過疎とされる地域の医療機関に多くの協力をいただくことになる。多忙を極める第一線医療機関の方々に医学生の教育をお願いするのは心苦しいのだが、学ぶのは将来の戦力候補である。地域に貢献できる医師を育成し、充実した医療提供につながればと思っている。

関係する機関の方々には、心からお願い申し上げます。



令和4年11月4日 協定締結式にて



## 2. 教育プログラムの成果と現状

### 「埼玉医科大学での地域医療教育を通して学ぶこと」

埼玉医科大学医学部医学教育学 教授 柴崎 智美

埼玉医科大学では、2012年度から埼玉県立大学を含む県内4大学とともに地域で連携するためのスキルを身につける教育を実施してきた。2016年度のカリキュラム改定によって、医学部1年生～4年生まで地域医療とチーム医療というユニット（他大学では科目に該当）を立ち上げ、少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通じて、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育むための教育に取り組んでいる。その中で、低学年から地域の高齢者や障害者、小中学校での実習など地域で生活する多様なひととふれあう様々な実習も実施してきている。

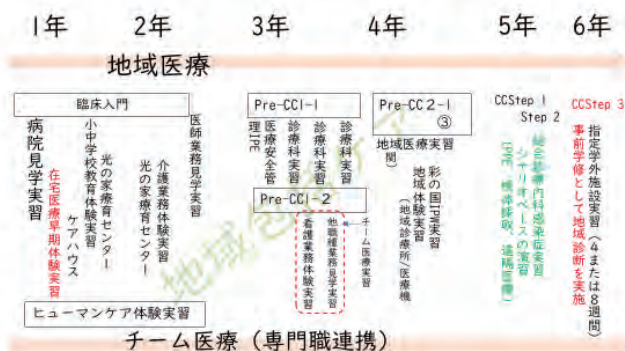
今回の事業では、今まで実施してきた地域医療教育を拡充し、地域を理解するためのスキルを身につけるプログラム、その価値観を臨床に応用した総合診療・プライマリケア教育の拡充、そして、ポストコロナ時代になっても今後流行が予想される新興・再興感染症への対応を地域において実践し、住民の暮らしを支えるための医療を提供できる力を身につける感染症対応人材養成を目指し、17ユニットで教育を拡充して行く予定である。

今年度は施行事業として、教育プログラム1では建築の専門家である大学教員を招いて、生活環境の人への影響を考え、ホスピタルアートにチャレンジする演習を、教育プログラム2では、この2年間多くの人が経験した遠隔医療面接、咽頭粘膜からの検体採取、適切な検査の実施、診断、処方、カルテ記載という、地域で活躍する医師の実践を模擬的に経験する総合診療内科感染症実習を試行している。

令和5年度からは、埼玉の地域医療を理解するための救急医療、周産期医療などの動画教材を用いた教育や群馬大学との合同授業、地域枠学生には、低学年からプライマリケアの入門の授業をスタートし、令和6年度には、1年生の在宅医療体験実習、3年生の感染症GISシステムを用いたデータサイエンスの演習、6年生の地域理解を基盤とした診療参加型臨床実習などの新しい教育を計画している。

「地域で学ぶ地域を学ぶ」沢山の教育が埼玉医科大学では準備されている。

#### 地域医療教育としての現場での実習



赤字：プログラム1で拡充 緑字：プログラム2で拡充

埼玉医科大学の地域医療教育（実習）



総合診療内科感染症実習



## 2. 教育プログラムの成果と現状

### 「群馬大学における地域医療と地域に根ざす医療人の育成」

群馬大学医学部附属病院

地域医療研究・教育センター 講師 羽鳥 麗子

人口 10 万人当たり医師数が全国 34 位の群馬県では、医師確保は最重要課題である。地域別では前橋医療圏に医師が集中し、太田・館林、吾妻医療圏での医師不足はさらに深刻な状況となっている。医師の診療科偏在にも問題があり、特に、産婦人科、小児科、麻酔科、救急科、外科、整形外科、総合診療科の医師が不足している。こうした状況の中、群馬大学では、平成 21 年度医学部医学科入学から地域医療枠制度を導入し、県内の地域医療を担う医師の育成に努めてきた。平成 21 年に 5 名の地域医療枠学生が入学して以降、毎年 18 名（令和 2 年度は 20 名）の新入生を迎え、令和 4 年度までに 242 名の地域医療枠学生が入学し群馬大学で学んでいる。

医療人に求められる資質・能力は、昨今の新型コロナウイルス感染症を契機に大きく変化していると言える。群馬大学では、本事業を通じて埼玉医科大学と連携し、地域医療枠とも連動し、地域ニーズの高い診療科領域に触れながら、「県境地域の医療情勢に重点をおいた教育」を目指す。新たな 2 つの教育プログラムとして、1 つ目の 1 年次教養教育科目「はじめて学ぶ地域医療」は、医学部医学科以外にも全学の学生が履修可能である。地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材の育成を目指し、総合診療、救急医療、母子・周産期医療等について、両大学を遠隔でつなぎ共同学習を行う。

令和 5 年 3 月 1 日（水）、2 つ目の教育プログラムの県境地域から学ぶ地域医療集中演習「利根川プログラム」を試行した。医学部医学科の全学年を対象とし、関連医療機関で実習や両大学間の共同学習を通じて、地域や住民の視点に立ち県境地域で抱える医療的課題について学習する科目である。医学科 3 年生 3 名が参加し、スタッフも同行して、公立藤岡総合病院を見学した。東京から群馬を訪れる人々の玄関口である藤岡市は、埼玉県の本庄市、上里町と隣接していることもあり、外来患者数の 1/3 は埼玉県から来院されるところである。病院に勤務する 70 名



公立藤岡総合病院にて

弱の医師が、救急医療、コロナ対応、地域医療を通じて地域を支え、さらに医学生、研修医、若手医師の指導にも熱心な姿勢に我々も感服した。参加者を温かく迎え入れてくださった病院スタッフとの交流から、医学生も地域の病院ならではの魅力を感じたのではないかと思います。



### 3. 連携体制と今後に向けて

埼玉医科大学 地域医療学 教授 廣岡 伸隆

本事業は、現在埼玉医科大学で行われている連携重視の地域医療教育を更に拡充・発展させる重要な役割を担っている。これまで卒前の地域医療教育では、少子高齢化という全国そして埼玉県の人口動態を念頭に地域医療充実の必要性から実施されて来た。その中で、昨年文部科学省より発表された医学生のカリキュラムの中に、地域医療においても核となる「総合的に患者・生活者をみる姿勢」という概念が、基本的な資質・能力として医師に求められる前提で取り入れられた。

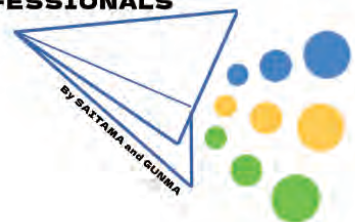
一方、卒後研修においても大きな転機が存在する。地域医療研修、あるいは一般外来研修を必修とするなど含むプライマリ・ケアの概念を取り入れ制度化されている卒後臨床研修、また近年の新専門医制度における総合診療専門医の基本領域への認定などである。新たに認定された総合診療の使命は、「日常遭遇する疾病・傷害への適切な対応と継続的な診療を全人的に行い、地域ニーズを踏まえて保健、医療、介護、福祉活動に取り組む」となっている。これらは高齢化、医療の専門細分化のにあつて総合的な視点を社会が求めているからでもあろう。これらプライマリ・ケアや総合診療の方向性は、本事業の地域医療教育とも連動している。

事業目的である「ポストコロナ時代に医師不足地域に必要とされる医療を提供できる医師を養成する」上で、埼玉県と群馬県に欠かせない県を超えた施設間の連携という横のつながりとともに、地域医療の教育において、卒前、卒後、生涯教育といった医師に必要な能力を高め活躍するためのキャリアという縦のつながりの充実も重要だと考える。すべての医学生が地域医療の素養を身に付け、多くが地域医療に将来携わり地域の中で積まれるキャリアの充実が、目的達成を後押しすると考える。

第2部最後の「今後に向けて」では、事業目的を意識して、本事業で実施される教育のアウトカムといった近未来について目を向ける。本事業に係わる卒前・卒後の双方の教育に携わる立場から、埼玉県と群馬県の種々の医療施設の横の連携と共に教育における卒前と卒後の連動という縦の連携の展望についても、広い範囲の対象者を念頭にお伝えできればと思う。

<メモ>

**EDUCATION  
FOR  
MEDICAL  
PROFESSIONALS**



## カリキュラムマップ（埼玉医科大学）

	プログラム1 地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成			プログラム2 ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成		プログラム3 地域への愛着を形成する埼玉県の地域医療			
	社会のニーズを的確に把握し、患者中心の医療を実践し、社会に貢献することを目指し、誇りを持って自己研鑽を続ける人材			ポストコロナ時代における新興・再興感染症に対応するマインドとスキルを持った医師		地域の課題を発見し、その課題解決に取り組むための技術を身につけ、埼玉県に対する愛着を持って地域医療に貢献する意欲を持った人材			
対象	医学部医学科の全学生			医学部医学科の全学生		医学部医学科の地域枠学生と関心のある学生			
6年		R6開始 CCstep3指定学外施設実習	R6開始			R6開始 CCstep3特定地域指定学外施設実習		R4開始	
5年	R6開始 CCstep1特別演習2		課外学習プログラム：総合診療とプライマリケア		R6開始 CCstep1総合診療内科感染症実習			課外学習プログラム：埼玉の医療	
4年	R5開始 地域医療とチーム医療4	R5開始 (R4試行) PreCC2-1							R5開始
3年		R5開始 (R4試行) PreCC1-1			R6開始 地域医療とチーム医療3				
2年	R6開始 地域医療とチーム医療2					R5開始 選択必修：地域医学・医療学入門	R5開始 選択必修：総合診療とプライマリケア		
1年	R5開始 地域医療とチーム医療1 (群馬大学との合同実施)	R6開始 臨床入門1 (在宅医療早期体験実習)			R5開始 臨床推論1				
	講義型	実習型	課外学習	講義型	実習型	講義型	実習型	課外学習	

## カリキュラムマップ（群馬大学）

	プログラム4 はじめて学ぶ地域医療		プログラム5 県境地域から学ぶ地域医療集中演習	
	地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材		地域医療を通じて、社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、医師不足が深刻化している埼玉・群馬県境の医療情勢に精通するジェネラリスト（利根川プログラム）	
対象	医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生		医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）	
対象年次	1年次		1～6年次（課外実習では5、6年次も参加可能）	
6年			R5開始	
5年			県境地域から学ぶ地域医療集中演習 (利根川プログラム)	地域医療体験セミナーin群馬／数日型地域医療体験セミナーin群馬／群馬県臨床研修病院等見学バスツアー
4年				
3年				
2年	R5開始			
1年	はじめて学ぶ地域医療			
	講義型		実習型	
			課外学習	



# 埼玉医科大学と群馬大学との共同学習



## 1年 地域医療とチーム医療

## 1年 はじめて学ぶ地域医療

- ✓ 埼玉医科大学医学部1年生、群馬大学医学部医学科・保健学科、共同教育学部、理工学部、情報学部1年生
- ✓ 埼玉県と群馬県の地域医療の現状を映像教材を共有して学修  
埼玉の医療（二次医療、三次医療、救急医療、母子・周産期医療）、難病医療、ゲノム医療、重粒子治療、感染症などの映像教材を視聴
- ✓ 両大学を遠隔でつなぎ、合同演習、発表会

## 課外学習プログラム 利根川プログラム

## 県境地域から学ぶ地域医療集中演習 （利根川プログラム）

- ✓ 埼玉医科大学医学部埼玉県地域卒業学生・地域医療に関心のある学生、群馬大学医学部医学科生（地域医療卒業学生及び地域医療に関心のある一般卒業生）
- ✓ 埼玉県と群馬県の県境地域の医療機関2カ所の見学実習
- ✓ 事前学習及び事後の学びの共有を両大学を遠隔でつなぎ実施



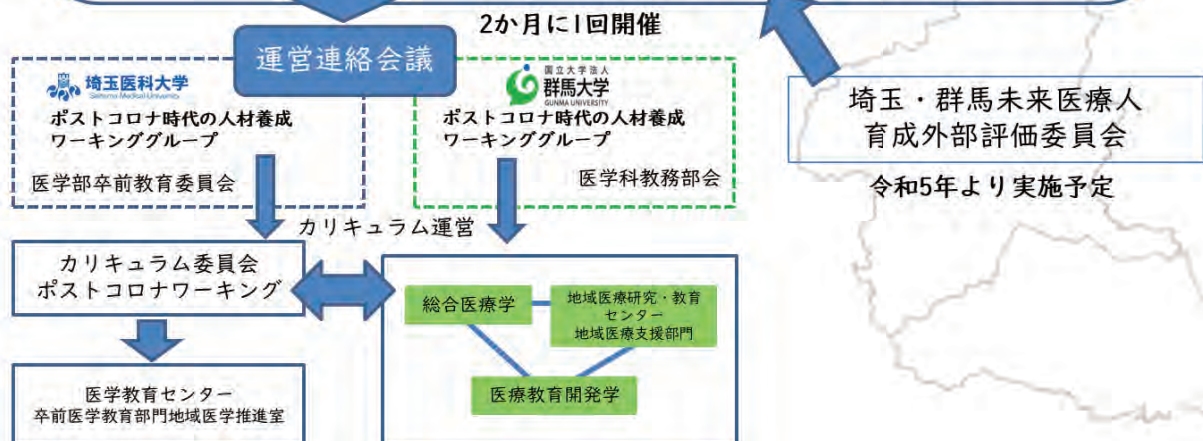
## 協力体制

構成員：各機関の代表  
年1回開催

### 埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議

埼玉医科大学 群馬大学  
埼玉県 群馬県  
埼玉県医師会 群馬県医師会  
埼玉県立大学

秩父市立病院 小川赤十字病院  
深谷赤十字病院 済生会加須病院  
東松山市立市民病院 小鹿野中央病院  
埼玉県立循環器・呼吸器病センター  
公立藤岡総合病院 公立富岡総合病院  
伊勢崎市民病院 桐生厚生総合病院  
公立館林厚生病院  
SUBARU健康保険組合太田記念病院



●学長からのコメント

地域に貢献するメインドの育成

埼玉医科大学 学長 別所 正美

埼玉県は、全国でも急速に高齢化が進み、医師不足が課題となっています。県境を利根川で接する群馬県にある群馬大学や医師の育成に関係する機関と力を合わせて、将来の医療ニーズに対応し地域に愛着を持って未永く貢献するメインドをもった優れた実地臨床医家の育成を目指します。



県境地域に焦点を当てた教育の実践

群馬大学 学長 石崎 泰樹

群馬県では、人口減少や急速な高齢化が進む中、医師の確保は重要な課題となっております。本事業では、埼玉医科大学と連携し、地域で必要な知識・技能・態度・価値観を共有する医学生生の育成に取り組んでまいります。



●知事からのコメント

地域医療体制充実の礎

埼玉県知事 大野 元裕

埼玉県では、急速な高齢化に伴い、医療需要の更なる増加が見込まれていくことから、今回の埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業に大きな期待を寄せています。地域住民の暮らしの課題を的確に発見・解決できる力を身につけた優秀な医療人材が各大学から多数輩出され、将来様々な形で県民の健康を守り支えてくれることを期待しています。



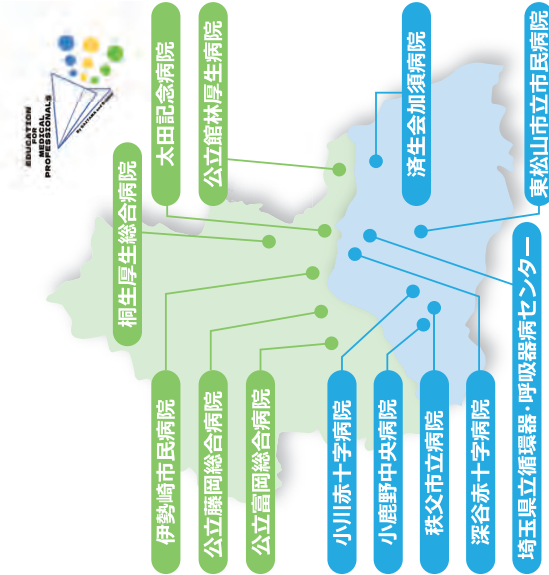
地域に求められる医師を目指して

群馬県知事 山本 一太

群馬県では、医師確保を県政の重要課題の1つと位置づけ、知事が率先して若手医師の確保に取り組む「ドクターズカムホームプロジェクト」を展開しています。本事業を通じて、地域医療に貢献する志を持った医師が多数育成され、両県の医療提供体制の充実が図られることを期待しています。



埼玉・群馬の健康と医療を支える連携医療機関



埼玉医科大学

TEL. 049-276-1109(学務課)

群馬大学

TEL. 027-220-7111(代表)

ホームページ URL

<https://sgmirai.jp/>

<お問い合わせ先>

※右記からどうぞ



埼玉・群馬の健康と医療を支える

未来医療人の育成



埼玉医科大学  
群馬大学

令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定  
(令和4年度～10年度、7年間)



# 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成



## ● 育成を目指す未来医療人像

- ◎ 地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師
- ◎ 小児科・産婦人科・救急医療・感染症科、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これからの必要となる臨床能力を身につけている医師

## ● 埼玉県・群馬県の共通の課題

- ・ 県境地域の医師不足
- ・ 県境地域における埼玉県から群馬県への患者流出
- ・ 急速な高齢化、診療科偏在



## ● 7年間の育成事業の内容

- ・ **新しいカリキュラム**の展開
- ・ 動画教材を開発・公開
- ・ 地域枠医学生のカリキュラムを支援
- ・ 実習施設の教育環境を整備
- ・ シンポジウムを開催
- ・ 高校生の地域医療に貢献する志を育成

## 埼玉・群馬県民の健康長寿の実現

地域医療（埼玉・群馬県境地域）を志す学生の質・量の向上

## ● 事業運営体制

事業推進大学 埼玉医科大学・群馬大学  
協力機関 埼玉県・群馬県  
埼玉県医師会・群馬県医師会  
埼玉県立大学  
連携医療機関 県境地域13医療機関

## 新しいカリキュラム

- ① 埼玉県・群馬県の地域を理解する ② 人の暮らしを支える ③ 感染症による危機管理に対応する ④ 早くから学ぶ・地域で学ぶ
- 将来地域で求められるがん医療・難病医療・遺伝医療 ○ 総合診療・プライマリケア・地域医療の現場での実習

### 埼玉医科大学

#### プログラム1：地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成

- 〔全医学部生対象〕
- ・ 在宅医療早期体験実習
  - ・ 地域医療とチーム医療の実習

#### プログラム2：ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成

- 〔全医学部生対象〕
- ・ 総合診療内科感染症実習
  - ・ 感染症の臨床推論

#### プログラム3：地域への愛着を形成する埼玉県の地域医療

- 〔地域枠学生と希望者〕
- ・ 利根川プログラム
  - ・ 選択必修：総合診療とプライマリケア

### 群馬大学

#### プログラム4：はじめて学ぶ地域医療

- 〔医学部医学科地域医療枠学生と希望者、保健学科生・共同教育学部生・理工学部生・情報学部生の希望者（1年次）〕
- ・ 地域医療
  - ・ 医療行政
  - ・ 合同発表

#### プログラム5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習

- 利根川プログラム  
〔医学部医学科地域医療枠学生と希望者〕
- ・ 臨地実習ハスティア

#### 1年次の授業

- ・ 両県の地域医療の現状を映像教材を共有して学習
- ・ 両大学を遠隔でつなぎ合同演習、発表会実施



#### 1～6年次の授業（利根川プログラム）

- ・ 県境地域の医療機関の見学実習
- ・ 両大学を遠隔でつなぎ学びを共有





令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

# 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

創刊号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業がスタートしました！

### ■埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業とは

埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、医師不足は深刻です。特に、北部、利根、秩父医療圏では、患者の群馬県への流出も多く、この地域の医療需給に関する問題は、埼玉県のみならず群馬県の医療提供体制を考える上でも重要です。このような背景を持つ両県の医育機関である埼玉医科大学と群馬大学が、現在のみならず将来を見据えて、地域を基軸として地域医療の現状を学ぶこと、将来地域医療の中で必要となるがん医療、難病医療、遺伝医療などに入学早期から触れること、地域の医療機関における体験実習を拡充すること、感染症医療、コモンディージーズの診療を含む総合診療に関する教育を推進することを目指し、両大学の学生が参加する利根川プログラムをはじめとした5つの教育プログラムを開発し、地域に必要な知識・技能・態度・価値観を共有する地域卒医学生の育成に取り組み、将来の地域医療に貢献できる医療人を養成するもので、文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業11拠点の1つに選定されています。

### ■協定締結

事業スタートにあたり、参加する20機関間で事業に関する協定を締結しました。締結式は、令和4年11月4日（金）、大宮ソニックシティ会議室において、埼玉医科大学別所正美学長、群馬大学石崎泰樹学長をはじめ、砂川埼玉県副知事、金井埼玉県医師会長、須藤群馬県医師会長、星埼玉県立大学学長ほか協定締結機関関係者の出席のもと執り行われました。



（前列左から、須藤群馬県医師会長、宮川群馬県健康福祉部医務課長、石崎群馬大学学長、別所埼玉医科大学学長、砂川埼玉県副知事、金井埼玉県医師会長、星埼玉県立大学学長、後列左から、木村済生会加須病院臨床研修センター長、柳澤埼玉県立循環器・呼吸器病センター病院長、森埼玉医科大学医学部長、伊藤深谷赤十字病院病院長、小湊群馬大学大学院医学系研究科長、山崎小川赤十字病院副院長）

### ■協定参加機関

埼玉医科大学、群馬大学、埼玉県、群馬県、埼玉県医師会、群馬県医師会、埼玉県立大学、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、秩父市立病院、東松山市立市民病院、深谷赤十字病院、済生会加須病院、小川赤十字病院、小鹿野中央病院、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院、伊勢崎市市民病院、桐生厚生総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院

## 本プロジェクトで大切にしていること vol.1

埼玉医科大学 副学長・医学部長 事業推進プロジェクトリーダー 森 茂久

### ■地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドの育成



埼玉医科大学、群馬大学ともにそれぞれの大学が位置する県の期待を受けて、地域卒の奨学金を受給する学生の教育に取り組んできました。全国的に地域卒の入学選抜における課題や地域卒学生の地域への定着が課題として取り上げられることが多くなってきたこともあり、今回、地域への愛着と地域医療を担うマインドの育成という大きな目標を掲げて、本プロジェクトに取り組むことといたしました。

県の地域卒制度は、県民の期待のもと県民の税金を原資として運営されています。愛着を形成するためには、それを深く理解することが何よりも大切で、県民の健康や暮らしに焦点を当てて、その地域地域の特徴を把握するための方法を身につけることを大切にしています。特に、両県の県境には山はなく、板東太郎と呼ばれる利根川が境になっていることから、古くから交流は活発で、生活圏域をともにするといっても間違っておりません。埼玉県には私立大学である本学、群馬県には国立大学である群馬大学が、それぞれ唯一の医育機関であり、学生・教職員ともに交流が活発です。このような、両県にまたがる地域への愛着をもとに、教育プログラムを開発します。

この目標に賛同いただいた両県、両県医師会、埼玉県立大学、両県の地域医療機関の協力を得て、現場を理解する、現場を学ぶ、現場で学ぶことに取り組み、両大学の学生を含めた地域医療を志す若者を増やし、両県への定着を図っていきたく考えています。

## 教育内容から

### ■ 埼玉医科大学のプログラム 優れた実地臨床医家の育成



埼玉医科大学では3つのプログラムを開発します。  
教育プログラム1は、医学部の全学生を対象に、本学の建学の理念に示されているように、地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成を目指し、従来実施してきた1年～4年地域医療とチーム医療ユニットの学びを充実させるとともに、埼玉県医師会の協力のもと、1年生から在宅医療の現場を体験する実習を新たに導入します。

教育プログラム2は、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行を契機に大きく変わった課題を解決する力を身につけた人材の養成を目指したプログラムです。医学部全学生を対象として、1年生から感染症の流行に関する臨床推論や臨床実習中の学生を対象とした感染症のシナリオベースの実習を開発します。

教育プログラム3は、埼玉県地域枠奨学生と地域医療に関心のある学生を対象としたプログラムです。1年次から地域診断の手法を用いた演習、2年次には総合診療とプライマリケアを学ぶなど総合的に人を診る視点、地域を視る視点を身につけます。6年生の実習では、将来働く地域の医療機関で実習を行い、その地域の課題と自らの役割を考えることを体験します。群馬大学との利根川プログラムの共同開講も実施します。

### ■ 群馬大学のプログラム 県境地域の医療情勢に重点を 置いた教育



ポストコロナ時代に必要となる総合診療・プライマリケアから高度・先端医療－これらの臨床能力を身につけた地域医療マインドを持つ医療人を育成するため、群馬大学では新たな2つの教育プログラムを開発します。「はじめて学ぶ地域医療」では、地域医療の実際と医療行政について学び、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えます。1年次を対象とし、医学科生のほか、保健学科生、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生も履修可能です。群馬と埼玉の地域や地域医療について、専攻が異なる学生がグループワークを行い、埼玉医科大学学生との合同発表を実施します。「県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）」では、医師不足が深刻化している両県県境の医療情勢に精通する総合医の養成に向け、関連医療機関で実習に参加します。医学部医学科生1年次から参加することで、地域や住民の視点に立ち、県境地域で抱える医療的課題について学習します。2022年度、公立藤岡総合病院での臨地実習を試行し、次年度以降、公立富岡総合病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院での臨地実習を進めていきます。

## シンポジウムのお知らせ

# 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 シンポジウム

令和5年

3月30日(木)

会場：埼玉医科大学

かわごえクリニック (Zoom配信併用)

地域医療に関心のある大学生、高校生、保護者、教職員、並びに医療機関の皆様、本事業に関心のある方は、どなたでもご参加いただけます。視聴も無料です。



### プログラム

- ・ 1部 特別講演 / 地域医療教育、地域医療の実践者など
- ・ 2部 本プロジェクトの紹介、成果 / 群馬大学、埼玉医科大学 他
- ・ 本プロジェクトのロゴマークデザイン表彰式 / 最優秀賞、優秀賞
- ・ お問い合わせ / 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事務局

[sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp](mailto:sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp)

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 創刊号



編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事務局  
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38  
TEL：049-276-1109  
発行日：2022年12月  
E-mail：[sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp](mailto:sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp)  
URL：<https://sgmirai.jp> (※2023年1月末リリース予定)

無断転載禁止







令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

# 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

第2号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

## 本プロジェクトで大切にしていること vol.2

群馬大学大学院医学系研究科長 事業推進プロジェクトリーダー 小湊 慶彦

### ■ 県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を行います

埼玉県と群馬県は利根川を挟んで隣接しており、古くから教育、医療、福祉をはじめとする様々な生活圏をともに構成してきました。本事業を通じて、医師の地域偏在や診療科偏在、高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するべく、両県の教育拠点が連携を密にする機会をいただけましたこと、改めて感謝申し上げます。

群馬県の医療情勢として、医師総数の不足、医師の地域偏在、医師の診療科偏在の3つが問題になっています。一方、埼玉県は、医師偏在指標が全国の中でも低く、県境地域から群馬県への患者流出も多いことから、この地域の医療需給に関する問題は、両県の医療提供体制を考える上でも重要です。

本連携事業では、新たな教育プログラムを開発し、県境地域に精通した「地域を良く理解する」、「地域への愛着を持つ」、「課題の発見と解決に対する意欲を持つ」医師の育成に努めます。本学では、医学部医学科以外にも全学部の学生が学ぶ「はじめて学ぶ地域医療」と、地域医療枠学生を含む医学部医学生が参加できる「利根川プログラム」の2つの教育プログラムを開講し、学生の「地域医療マインド」を育みたいと考えています。

群馬県内の連携機関として、群馬県、群馬県医師会、また、地域医療実習等で医学生に対して日頃から御指導いただいている連携医療機関のうち、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、公立館林厚生病院、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院の6つの県境地域の医療機関に御協力いただきます。

両大学が連携し、県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



## 新たな教育プログラムの開講

群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センター講師、事業推進委員会委員 羽鳥 麗子

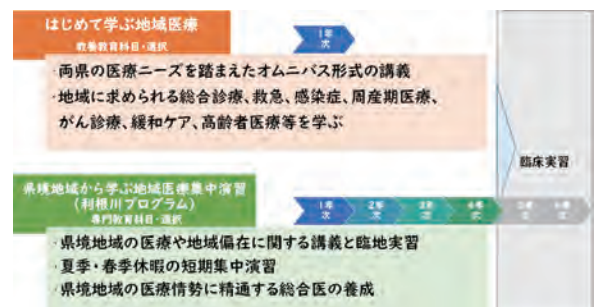
### ■ 「早くから学ぶ・地域で学ぶ」教育に努めます

群馬大学では、教養教育科目として「はじめて学ぶ地域医療」、専門教育科目として県境地域から学ぶ地域医療集中演習「利根川プログラム」を新たに開講し、県境地域の医療情勢に重点をおいた教育を目指します。

まず、「はじめて学ぶ地域医療」では、全学部1年次を対象とした選択科目で、地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材の育成を目指します。両県の医療ニーズを踏まえて、総合診療、救急、感染症、周産期医療、がん診療、緩和ケア、高齢者医療等について、オムニバス形式の講義で学ぶとともに、埼玉医科大学の学生と遠隔で合同講義や合同発表を行います。

「利根川プログラム」では、関連医療機関で実習を通じて、地域や住民の視点に立ち、県境地域で抱える医療的課題について学習します。医学部医学科全学年を対象に、地域医療を通じて、社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、県境の医療情勢に精通するジェネラリストの育成を目指します。

群馬大学と埼玉医科大学では、2つの教育プログラムの中で、映像教材を共有し、合同演習・合同発表など、遠隔で共同学習を行います。これらの教育では、将来、地域医療の中で必要となる領域について、「早くから学ぶ・地域で学ぶ」ことを大切に、地域への愛着・地域医療マインドの醸成に努めてまいります。





本プロジェクトロゴマークの紹介

「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業のロゴマークが決定しました！

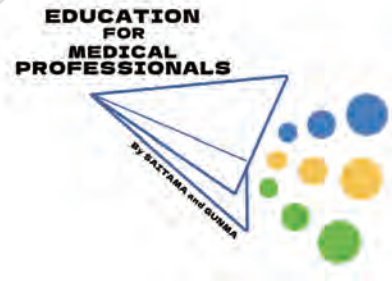
最優秀賞

群馬大学 医学部 3 年生  
中嶋 理名さん



優秀賞

埼玉医科大学 医学部 4 年生  
岡村 明日香さん



ロゴの公募に対し両大学の学生、教職員より 12 名の応募がありました。最優秀賞は、群馬大学医学部 3 年生の中嶋理名さん。優秀賞には、埼玉医科大学医学部 4 年生の岡村明日香さんの作品が選ばれました。若い学生の希望を叶える取り組みとすべく、両大学で連携推進します。ご応募いただきました皆様、ご協力ありがとうございました。お二人のロゴに込めた想いは、当事業のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

## 令和 4 年度試行プログラム

### プログラム 2 : CCstep1 総合診療内科感染症実習

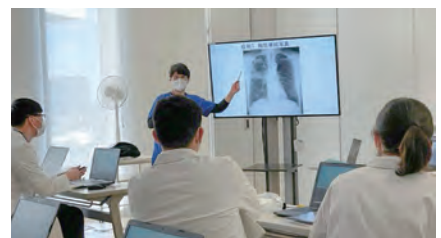
埼玉医科大学病院 臨床検査医学 教授 前田 卓哉

感染症をキーワードとし、「遠隔医療」と「適切な検体検査」をテーマとした試行プログラムとして開始しました。総合診療内科と臨床検査医学の教員 3～4 名が指導者となり、独自教材を用いて学生 7～8 名のグループを対象にシナリオ・ベースで進行します。まずは 1 名の学生が遠隔診察室の患者役となり、医師役学生が医療面接を行いながら、全員で臨床推論を深めます。ここでは、聴取した情報をその場で整理し、あらゆる臨床推論を行いながら、鑑別診断に必要な情報をさらに聞き出す工夫が必要です。

医療面接のあとは、想起した感染症に必要な感染対策を考慮し、身体診察、画像検査、血液検査、そして病原体検査を構築します。本実習では、シミュレータを用いた検体採取、実際の体外診断薬を用いた抗原定性検査を行うほか、喀痰検査では実検体の観察、およびデジタルスライドを用いて学生自らが検体の質を評価し、観察に適した部位を判断のうえ病原体を推定します。最後は電子カルテの記載法を学び、診療録の記載を行い実習は終了です。どこまで、感染症診断にせまれるか？本実施に向け、学生からのアンケートをもとに、シナリオ・教材のブラッシュアップに取り組みます。

#### 参加した学生のコメント

- ▶ 臨床現場での流れと同じように、医療面接から身体診察、検査を体験することができた。
- ▶ 自分の基本的な知識不足が多かったため、その勉強はもっとしていかなければいけないと感じた。
- ▶ 実際の検体を見ることができたこと、取った検体をきちんと確認することの重要性を学べたことが良かった。
- ▶ 発熱、咽頭痛、咳嗽とくるとついコロナを連想してしまいコロナだろうかと決めつけてしまいがちだが、そこでしっかりと鑑別をする必要性を感じる事ができた。



## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第 2 号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局  
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
TEL：049-276-1109  
発行日：2023 年 03 月  
E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp  
URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止



# 埼玉県医師育成奨学金

埼玉県では、県に愛着があり「将来医師として埼玉県の地域医療に貢献したい」という強い意志を持つ医学生に奨学金を貸与しています。

## 奨学金のポイント

貸与期間の1.5倍の期間、特定地域の公的医療機関又は特定診療科等に医師として勤務した場合、奨学金の返還を免除

特定地域の公的医療機関（令和5年3月1日現在）

県立循環器・呼吸器病センター、秩父市立病院、東松山市立市民病院、深谷赤十字病院、済生会加須病院、小川赤十字病院、国民健康保険町立小鹿野中央病院

特定診療科等

埼玉県内の病院の産科、小児科、救命救急センター

## 貸与額

月額20万円（東京医科歯科大学は15万円）

## 募集人数

45名 ※令和5年度入学者募集例

埼玉医科大学	19名	北里大学	2名
順天堂大学	10名	東京医科大学	2名
日本医科大学	2名	東京医科歯科大学	5名
日本大学	5名		



埼玉県マスコット「コバトン」

詳細及び最新の情報については、各大学もしくは下記担当までお問い合わせください。

問合せ先

■埼玉県 保健医療部 医療人材課 048-601-4600

## 群馬大学医学部医学科地域医療枠

群馬県での将来の医療を担うという強い意思を持ち、群馬大学医学部医学科に地域医療枠として進学する学生に対し、群馬県では修学資金を貸与しています

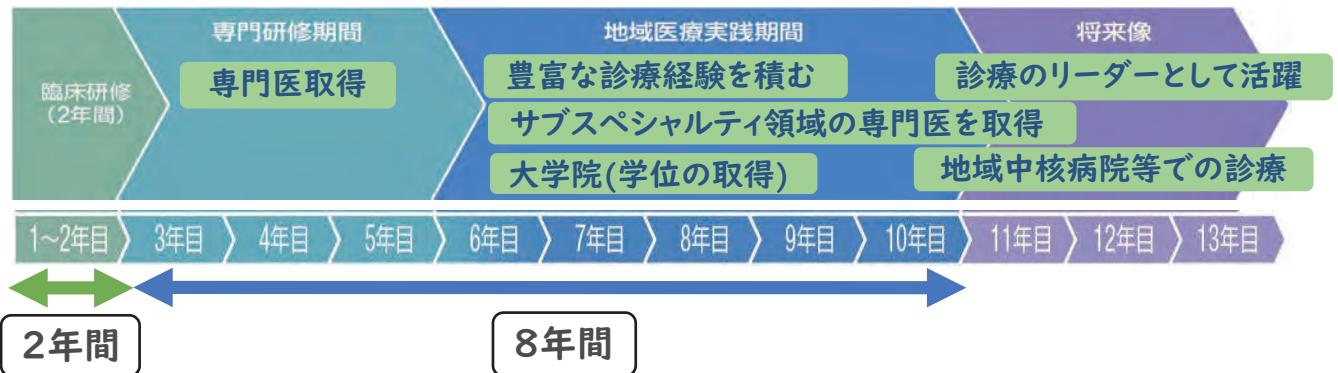
### 返還免除要件:

- ・卒業後、県内の特定病院で**10年間**診療業務に従事  
臨床研修修了後、8年間のうち**4年間**以上は、いずれかの地域・診療科に勤務  
「**医師不足地域**」の特定病院 前橋を除く9保健医療圏  
「**特に不足する診療科**」 小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、外科、整形外科、総合診療科
- ・「**ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス**」への参加

群馬県緊急医師確保修学資金制度



### キャリアパスの一例



群馬県地域医療支援センターでは医学生のキャリア形成をサポートしています

- ・地域医療枠学生情報交換会の開催
- ・地域医療体験セミナー/臨床研修病院等見学バスツアーの開催
- ・専任医師によるキャリア相談

群馬県地域医療支援センター



高校生向けの事業も行っています

- ・医学部医学科を目指す高校生のための職場体験セミナー
- ・高校生Gドクターズ特設サイトにて情報発信

将来、地元で活躍する医師になりたい!



高校生Gドクターズ





---

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」選定  
「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業  
令和4年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム 抄録集

発行日：2023年3月30日

企画・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話：埼玉医科大学(学務課) 049-276-1109

E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp

---

○お問い合わせ先：

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

[sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp](mailto:sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp)

埼玉医科大学(学務課) 049-276-1109

○主催： 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

